



目人の婦

12月に入るとわが家は、各自が演じるサンタクロースのために、贈り物の用意に忙しい。幼いころの長女と次女は、深夜のクリスマス・ミサの帰路、寒い夜空に光る飛行機の赤いランプを見て、ト

ナカイの赤い鼻を見たとき本気で信じ、心からサンタクロースの贈り物を信じていた。

けれど、そのサンタの正体がわかった時から、彼女たちは、自分がこんどはサンタクロースとなつて、主人、私、それに七つ離れて生まれた弟

にプレゼントするようになった。この出来事は私たち夫婦にとつて、一つの大きな贈り物であった。そして、ことしもまた、内緒で贈り物の準備をしている子どもたちを、あつてゐる種のもつてながめて

「クリスマス」の心

藤屋 紀子

しかし、ことし私たち夫婦は話しあつて、本当のクリスマス精神をわが家に導入したいと考えるようになった。

クリスマスの本物の贈り物は、「キリストご自身を神が私たちにくださった」という事実ではないのか。包装紙を破

くのに忙しいクリスマスはもうやめよう。それ自体、決して悪いことではないし、私たちの家族にそのようなクリスマスも、大きな喜びをもたらしてくれたけれど……。

クリスマスに買ひ物とシングルベルとピカピカ飾りの中

私たち夫婦も、子どもたちも大きな決断と助けを祈らなければならぬ。

人生の中で人間が一つの決断をする時、古い今までの自分の歩みを大切に、クドクドといくら物事を考えても、決断はできないような気がする。今までよいものと思つたものさえ捨てて、つぶして、その中から新しいものを削り出す情熱が必要なのではないか。

私たちは、クリスマスに神ご自身がくださったイエズス・キリストという贈り物をわが家にいたたきため、今までの大きな喜びを断ち切つて、全然違った道にジャンプしてみたいと考えている。

(主婦)